

はじめに

小学校では平成 30 年度から、中学校では平成 31 年度から道徳が教科化となり、益々道徳教育の重要性が高まってきている。学校教育の中では道徳の時間が週に 1 時間位置付けられているが、確実に実施できていない現状も見られる。また、実際の授業においては、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなど、型にはまった指導になりがちであることも問題点として挙げられた。それらの問題を少しでも改善するために、各校の現状や実践例について話し合い、先生方が少し頑張ればできると思えるような道徳の授業を目指していくことにした。

1 教育活動全体における道徳教育の充実について

(1) 教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させるために

① 道徳教育の目標の明確化

学校としてどのような子供を育成したいのかを明確にする。

→関係法令・行政の重点施策・学校や地域、児童の実態や課題・教職員や保護者の願いなどを基に検討する。

② 重要内容項目の明確化

道徳教育の重点目標と、道徳の時間との関連を明確にする。

例：重点目標のキーワードが「相手の立場になって考える」	「約束やきまりを守る」の場合
・・・B の視点「親切、思いやり」(小学校)	「思いやり、感謝」(中学校)
・・・C の視点「規則の尊重」(小学校)	「遵法精神、公德心」(中学校)

③ 重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期の明確化

教育活動全体を通じて行う道徳教育には、各教科や総合的な学習の時間、特別活動、日常の児童・生徒指導の中で行う「道徳的実践の指導」と、道徳の時間を通じて行う「道徳的実践力の育成」とがある。今回の改定では、教科の特質を生かした道徳教育を進めていくために、「道徳の時間」以外の道徳教育の内容や時期を示す必要が明示された。

→「道徳教育全体計画別葉」の作成

(2) 別葉作成の手順

① 学校の重点内容項目に関わる各教科等における道徳教育を構想

② 日々の授業を行いながら、道徳教育として指導していきたい教育活動のメモ

③ 累積したメモを各教科等の指導計画に位置付け

(3) 道徳教育全体計画別葉の具体例

① 内容項目別にまとめたもの

重点内容項目：「思いやり、親切」、「規則の尊重」（小学校第2学年の内容）

内容	道徳の時間	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	柳井児童会
A-(5) 希望と勇氣 努力と強い意志	10月：ぼく、よびにいってくる 3月：かけ算けんてい	3月：楽しかったよ、二年生	重点内容項目に関しては、時期、単元名のほか、指導内容について簡潔に記す方法も考えられる。				6月：鉄棒遊び 7月：水遊び 12月：持久走 1月：縄遊び	
B-(6) 親切、思いやり	6月：ぐみの木と小とり 10月：どうしたらいいのかな	10月：お手紙 がまくんを心配するかえるくんの優しさに気付かせる	春：グループで遊 友達の考えのよさに気付かせる	1月：おはじ 1年生が楽しめるように計画を立てる	6月：かえるのうた 相手の歌声を聴きながら輪唱をする	5月：みんなの歌 友達の作品のよいところを伝える	10月：ボールゲーム 相手のことを考えてキャッチゲームをする	通年：継続的 進んで1年生の面倒をみる
B-(7) 感謝	10月：きつねとぶどう 7月：お気に入りのかさ	3月：楽しかったよ、二年生		1月：あしたへジャンプ	その他の内容項目に関しては、可能な範囲で時期と単元名を記載する。			2月：6年生を送る会、感謝の会
C-(10) 規則の尊重	4月：おまけ学校のきまり 10月：おじさんのがみ 1月：森のけいじばん	2月：みんなできめよう きまりを守って話し合いを進める。	10月：かけ算 規則にそって考えることで問題解決につなげる。	10月：おはじ おはじのルール	6月：音楽鑑賞会 周囲の迷惑にならないように鑑賞する。		通年 順番やルールを守って運動やゲームをする。	通年：学級活動 公共施設についてのきまりを確認したり、学級のきまりを話し合ったりする。

② 指導時期別にまとめたもの

重点内容項目：「向上心、個性の伸長」、「思いやり、感謝」（中学校第2学年の内容）

月	内容項目	道徳の時間	教科	教材・単元	道徳的ねらい	概・生徒・部活動	道徳的ねらい
4	向上心、個性の伸長	不思議 虎	数学	式の計算	計算に習熟し、自己肯定感を高める。(向上心)	春季大会	役割と責任を果たして自己の目標を目指し、やりぬく意志をもつ。(向上心)
			保健体育	集団行動	自主・自立	前期係・委員決め	自己の役割や責任を果たして生活しようとする気持ちをもつ。(向上心)
	友情、信頼	信子と敏子	国語	走れメロス	友情・信頼	学級開き	集団生活の充実
5	思いやり、感謝	ありがトオヨ	家庭	生活を豊かにするために	お互いに生活を豊かにしようとする気持ちをもつ。(思いやり)	生徒総会	集団生活の充実
	国際理解、国際貢献	国境線が鍛える共生の思考	英語	Charity Walk	国際理解、国際貢献	運動会練習	認め合い、支え合う気持ちをもつ。(思いやり)
	節度、節制	小さなこと	社会	世界各地の人々の生活と環境	国際理解、国際貢献	新入生正式入部	下級生の面倒を進んでみようとする。(思いやり)
6	真理の探究	ロスタイムの続き	理科	電流と磁界	真理の探究	夏季大会 中間考査	望ましい生活習慣を身に付け、自己の目標に向かってやりぬく意志をもつ。(向上心)
	克己と強い意志	人間であることの美しさ	音楽	交響曲第5番「運命」	真理の探究		
	相互理解、寛容	「一番乗り」たけいち	美術	屏風アート	わが国の伝統と文化の尊重		

同じ行事でも学年によってねらいとする価値が変わってくる。

【例】運動会：1年→望ましい集団生活 2年→役割と責任 3年→愛校心 全体→思いやり

2 具体的な実践例

(1) 小学校の取組 (H28年度下野市道徳教育研修会 石橋小学校1年生)

- 1 主題名 親切な心で 2-(2) 思いやり・親切
- 2 資料名 はしの上のおおかみ (出典 わたしたちの道徳)
- 3 本時の指導

◎研究主題との関連 ◆人権教育

学習活動と主な発問	指導上の留意点
<p>1 優しい人について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切な人 ・助けてくれる人 ・「大丈夫？」って言ってくれる人 <p>怖い人の荷物を持ってあげるのも親切ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切じゃない ・同じようにもってあげているから親切 <p>2 本時のテーマを知る。</p> <p>本当のやさしさについてかんがえよう。</p> <p>3 資料「はしの上のおおかみ」をもとに話し合う。</p> <p>最初のおおかみと最後のおおかみで違うところは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初のおおかみはいじわるだけど、最後のおおかみはやさしくなった。 ・最初も楽しかったけど、最後はもっといい気持ちになっている。 ・いじわる心がいい心になった。 ・やさしい心が増えた。 <p>どうしておおかみの心が変わったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまに優しくされて嬉しかったから ・くまのまねをしたくなったから ・くまにいじわるをされると思っていたけど、優しくされてびっくりしたから <p>4 優しい人についてもう一度考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれにでも優しくできる人。 ・ひとの気持ちを考えられる人。 	<p>◎発言しやすい雰囲気を作るために机をコの字型にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動だけで親切と判断してよいのか、問題意識をもたせる。 <p>・最初のおおかみと最後のおおかみを対比的に板書することで、おおかみの内面的な心の変容に気づかせたい。</p> <p>・心情円グラフを用いて、おおかみの中にはいじわるな心と優しい心が共存しており、最後には優しい心を使おうとし始めていることをおさえる。</p> <p>・おおかみは別のおおかみになったわけではなく、同じおおかみだけれども、その心の遣い方が変わったことに気づかせたい。</p> <p>◎◆近くの児童とペアトークを行い、お互いの考えを聞き合い、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまの心を通して、「弱い者をいじめるという気持ち」から「相手が喜ぶという気持ち」という心の変化に気づかせたい。 ・親切は行動だけでなく、その行動の基になる温かい心が大切だということに気づかせたい。 <p>・日常生活の中から優しくしている行動を紹介し、これからも親切にしようという意欲をもたせる。</p>

4 成果

- ・導入について→児童が理解している「優しい人」についての考えを引き出すことで、問題意識をもって資料を読むことができた。
- ・テーマ発問について→「本当のやさしさ」を中心テーマに示すことで、学習の方向性が明確になり、ねらいからそれずに授業を展開することができた。
- ・構造的な板書→話し合いの中で出てきた意見を集約したり、比較したりすることで、思考の流れを共有することができた。



【 構造的な板書 】

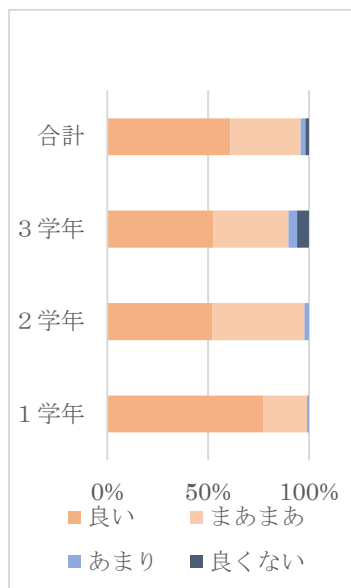
5 課題

- ・心情円グラフを用いて、「やさしさ」という抽象的な概念を量で比較するのは有効であった。さらに、児童が自分の言葉で表現できるような補助発問を工夫していくことが必要である。
- ・友達の考えを聞き、自分の考えを伝えるためのペアトークは、ねらいに迫るための手段であり、目的にならないようにする必要がある。話し合いの観点をできるだけ具体的に示し、短時間で深まりのある取組になるようにしていきたい。

(2) 中学校での取組

① ローテーション道徳

全教員が自分の得意分野の価値で授業を設定し、学年全クラスをまわって授業を行った。同じ授業を何回か行う中で、生徒の反応を見ながら授業を修正することで、よりよい授業を目指した。実施後のアンケートでは、肯定的な回答が多かった。



アンケートの考察

①生徒の反応はおおむね好意的であった。その理由の多くが、

- ・いろいろな先生の授業を受けることができた。
- ・普段関わりのない先生と関わることができた。
- ・先生によって授業の仕方や教え方が違って楽しむことができた。

といったものであった。そこには生徒がローテーション道徳を楽しみにしていた様子も見られる。印象に残った授業としては、ビデオなどの視聴覚教材を使った授業や歌を題材にしたもの、アクティブラーニングをとり入れた授業もあがっていたが、深く考えることができた授業など生徒それぞれに違っていた。何より、たくさんの先生方と生徒は関わりたいと感じていることも分かった。

しかし、若干名であったが、「担任の授業がよい」「やる意味が分からない」という意見もあった。

②教師の反応も好意的なものが多かった。戸惑いや難しさを感じながらも、

- ・教材研究ができた。
- ・他の先生の授業を参観して勉強になった。
- ・いろんなクラス、生徒とふれあうことができた。

と、効果を感じた意見が多かった。ただ、長い間クラスの道徳ができないことや担任の負担が減る分、無担の先生の負担が増えることも課題としてあがった。

② 道徳週間

各ステージに1回、道徳強調週間を設定した。担任を中心にしたローテーション道徳や学年道徳を実施し、学校全体で道徳教育の充実を図ることを目的としている。

◎3学年
各ステージごとにテーマを決め、そのテーマに合わせた道徳の題材を、学年で練り上げて全クラスで実施する。授業後振り返りを行い、さらに深めていくようにする。

各テーマ予定
A期：最後の大会に向けて
B期：進路の実現に向けて
C期：感謝の心

◎3学年
A期：7/14 (木) 6校時 テーマ：最後の大会に向けて
題材：『後悔しない生き方を求めて』（『とっておきの道徳授業12』より）
ねらい：A-（4）克己と強い意志
展開：○過去を振り返る：中学校生活を振り返って後悔していることを挙げる
○未来に生かす：『部活』『運動会』『受験』ということがおきたら後悔するか話し合う。
○現在の行動につなげる：卒業式に後悔しないようにするにはどうしたらいいか考える。
各クラスで工夫した点
・導入で『死ぬときに後悔すること25』から、末期がんの患者の人の後悔することを紹介。
・導入で教師の機械脳を紹介し、後悔することを考えやすくした。
・導入で『北斗の拳』のラオウの名言を紹介。
・終末でケツメイシ『空』を紹介し、『やらない後悔』より『やる後悔』を薦むことに触れた。

3 保護者及び地域との連携及び発信

① 保護者への授業公開

授業参観時に全校一斉に道徳の授業を行う。事前に学年で内容を検討し、保護者へも事前に通知した上で、授業を行う。その際、保護者にも内容について考えてもらうため、懇談会の話題にし、意見を出してもらったり、家庭で再度話し合ってもらおうよう働きかけたりする。また、「わたしたちの道徳」を家庭に持ち帰らせ、話し合うきっかけとする。



② 地域の方との交流を道徳の授業に生かす

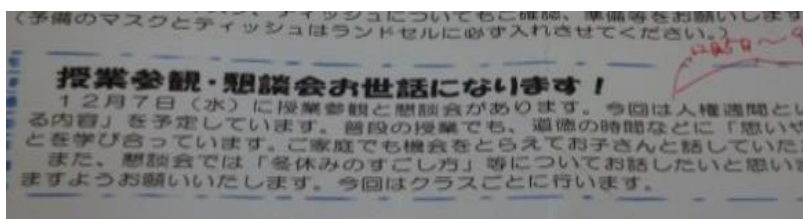
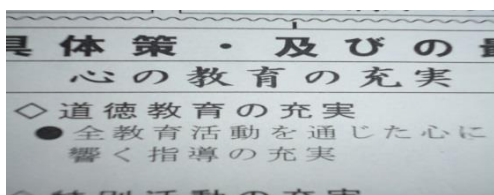
他教科等での地域の方との交流した内容を道徳の授業の導入や主題に対する思考の材料にするなどして、授業の中で生かす。



〈例〉1年生の生活科でチューリップの球根植えを行う際、地域の方に協力していただき、植え方、育て方などを知り、それを道徳の「生命尊重」の授業に活用した。

③ 学校だより、学年だよりでの発信

学校だよりで学校全体としての道徳の取組を伝えるとともに、学年だよりにおいて授業の内容を伝えたり、家庭での話し合いを促したりする。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・道徳教育を充実させるためには、各学校の実態に応じて重点目標を設定し、内容項目の重点化を図って教育活動全体を通じて取り組まなくてはならないことを確認することができた。
- ・各校の取組について聞いたことを、自校での活動に生かすことができた。

(2) 課題

- ・道徳の時間の年間35時間を確実に確保するようにしていかなければならない。そのためには、先生方の意識改革や各校での研修を行っていかねばならない。
- ・評価についての研修が必要となってくる。また教科化に備えて教科書（副読本）を使った効果的な授業の展開の仕方についても研修が必要である。